

2022年9月30日

各位

株式会社三井住友銀行

ツネイシホールディングス株式会社に「SDGs推進融資」を実施

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：高島 誠）は、ツネイシホールディングス株式会社（代表取締役社長：神原 宏達）に「SDGs推進融資」を実施いたしました。

「SDGs推進融資」は、融資実行時に、株式会社三井住友銀行と株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎 勝教）が、企業のSDGs（※）に関する現状の取組状況を確認した上で、本業を通じたSDGs貢献への道すじ（ロジック）を分析し、SDGsの取組推進に向けたアドバイス等をご提供する融資商品です。

今回対象となりました、ツネイシホールディングス株式会社については、以下に記す事業を通じて、SDGsの目標達成に向けた貢献が期待できると判断されました。

- ① 造船事業：代替燃料船や低燃費船の開発・建造を通じた海運セクターにおけるCO2排出削減への貢献、海外展開先における地域の学生に対する教育・就職支援

目標 9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	9.4 2030年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。すべての国々は各国の能力に応じた取組を行う。
目標 13 気候変動に 具体的な対策を	13.2 気候変動対策を国別の政策、戦略及び計画に盛り込む。
目標 4 質の高い教育を みんなに	4.4 2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。

- ② 海運事業：海上輸送における航路や船速の最適化による船舶運航時のエネルギー消費効率の改善

目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	7.3 海上輸送における航路や船速の最適化による船舶運航時のエネルギー消費効率の改善
--------------------------------	--

- ③ 環境事業：廃棄物処理・リサイクル事業や再エネ発電設備の設置による資源循環型の地域社会形成への貢献

<p>目標 12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>12.5 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。</p>
<p>目標 11 住み続けられる まちづくりを</p>	<p>11.6 2030年までに、大気の状態及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。</p>
<p>目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p>	<p>7.2 2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。</p>

三井住友銀行では、「SDG s 推進融資」により、本業を通じ、SDG s が達成される社会の実現に貢献をしております。



次世代燃料船の建造ならびに最適な効率運航による地球温暖化ガス排出の削減



産業廃棄物焼却時の熱エネルギーを発電に活用



工場のある中国で「常石技術学校」設立し、技術教育ならびに就職支援

<ご参考>

※ SDG s とは

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を2030年までに目指す17の目標と169のターゲットのことです。

以 上